

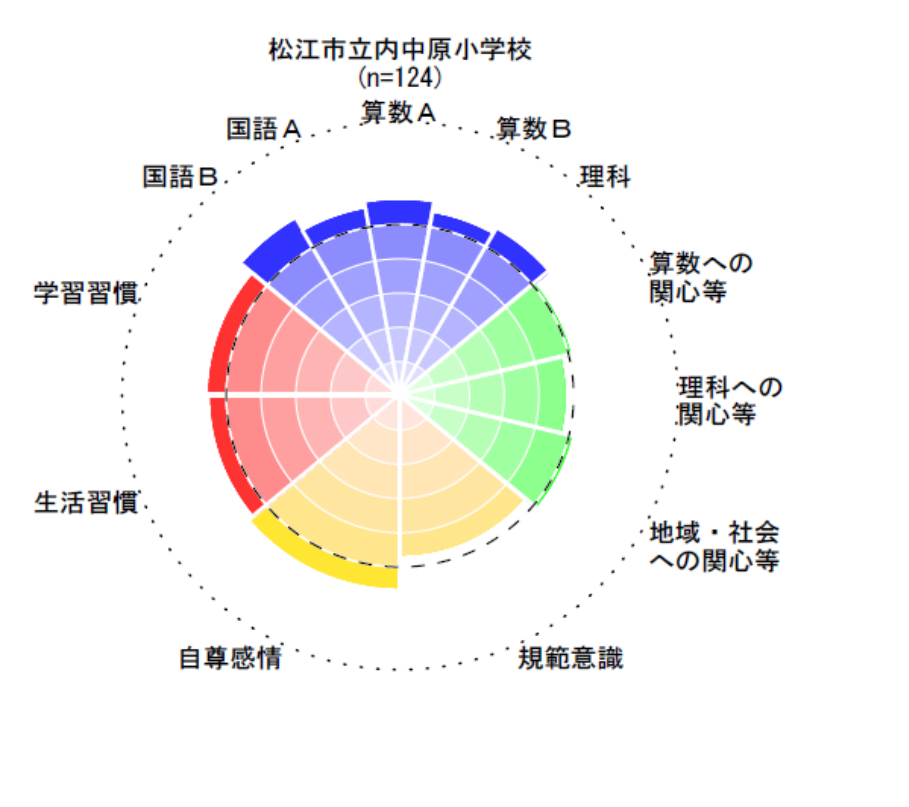
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○上位層が多い。昨年度の県の学力調査より漢字の力が大きく伸びてきている。 ○漢字、読むこと（文章の中から必要な情報を取り出す）、書くこと（主述の関係が合うように文末を整えて書く）も、国・県に比べて正答率が高い。 ●漢字、言語事項は、問題形式が選択式であるにもかかわらず無解答率がやや高い。 ●慣用句の意味について誤答がやや多い。また、同音異義の漢字についても誤りが多い。	・上位層の児童を活かしつつ、下位層の理解を促す授業を心掛ける。 ・慣用句やことわざについては、国語辞典を学習の中でも、学習外の時間でも、進んで使う態度や習慣を身につけるようにする。また、意味だけでなく、使い方も、生活と結びつけて覚えるようにし、語彙を増やす。 ・同音異義語を正しく覚えさせるとともに、使い方や意味もあわせて正しく指導する。
	B (活用)	○正答率が全問で国・県平均よりも高く、昨年度の県の学力調査から引き続いて概ね良好な状態である。 ○読む力が高く、問題文を正しく読み取ることができている。また、長文の理解も充分な児童が多く、読書指導の効果ができていると考えられる。 ●与えられた条件に合わせて内容を要約する問題の正答率が低い。	・読書活動の活性化を継続して語彙を増やし、文章読解のスキルを高めていく。 ・ペア対話や全体対話を中核にすえた対話型授業を進める。自らの考えをもたせ、それを文章化することを全ての学習で取り入れ、考えを表現する力を高めていく。 ・授業の中で、条件をつけて内容を要約する場を意識的に設定していく。
算数	A (基礎)	○上位が多い。全体の平均から見れば、昨年度の県の学力調査から引き続いて概ね良好な状態であると言える。 ○全領域で、正答率が国・県の平均を上回っており、十分な力をつけている児童の割合が高い。 ●正答率が高い一方、無解答率も高く、児童の学習意欲や理解度が二極化していると考えられる。 ●算数用語（円周率、円周など）や公式の意味理解が曖昧になっている児童がいる。	・各学年で、基礎基本を定着させて次の学年に進めるよう全教職員で共通理解し、指導に当たる。 ・下位層も上位層も、共に高め合うための学習課題の設定や授業展開の工夫を行っていく。 ・問われていることを丁寧に受けながら、問題に取り組むようにする。 ・算数用語は、その意味まで理解できるように指導（実生活に即した教材）や掲示等を工夫する。
	B (活用)	○全領域において正答率が国・県の平均を上回っている。 ○中間層がやや薄く、中上位層が厚くなっており、二極化を示している。よって上位の児童と下位の児童との理解度の差が大きいと言える。 ●長文の問題を読み取ることが苦手な児童がいる。 ●図形に関わる論理的な考察が求められる問題の正答率が低い。	・ペア対話や全体対話を中核にすえた対話型授業を進め、下位層も上位層も、共に高め合うための学習課題の設定や授業展開の工夫を行っていく。 ・問われていることを丁寧に受けながら、問題に取り組むようにする。 ・図形に関わる論理的な考察が求められる問題なども取り入れ、既習事項をもとに多面的な理解力を伸ばしていくようにする。
理科		○昨年度の県学力調査より正答率が大幅に向上し、県及び全国平均より上回っている。 ○授業で行った実験や観察をしてわかったことを確実に理解している児童が多い。 ●異学年内容を関連付けた問題の正答率が低い。 ●記述式の問題の正答率が低い。	・各学年の学習内容を復習する機会を設け、定着を図る。 ・試行錯誤しながら時間をかけて実験できるように指導計画を組み立てるようにする。 ・実験結果や観察の記録をもとに自分の考えをもたせ、それを文章や図を使って表わす場面を多く設定する。

(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
○自尊心が高く、地域や社会の出来事に関心が高い傾向が見られる。 ○授業の予習・復習にはよく取り組んでいる。 ○家庭での読書量が伸びてきている。 ●家庭学習が、県平均より若干短い。	・主体的な学びの工夫や、学習したことを生活に活かす態度を育てる工夫をする。 ・図書館活用をさらに推し進め、読書量をさらに増やしたり、調べ学習のスキルを身につけたりする。 ・授業の予習・復習によく取り組んでいる姿を称賛していく。

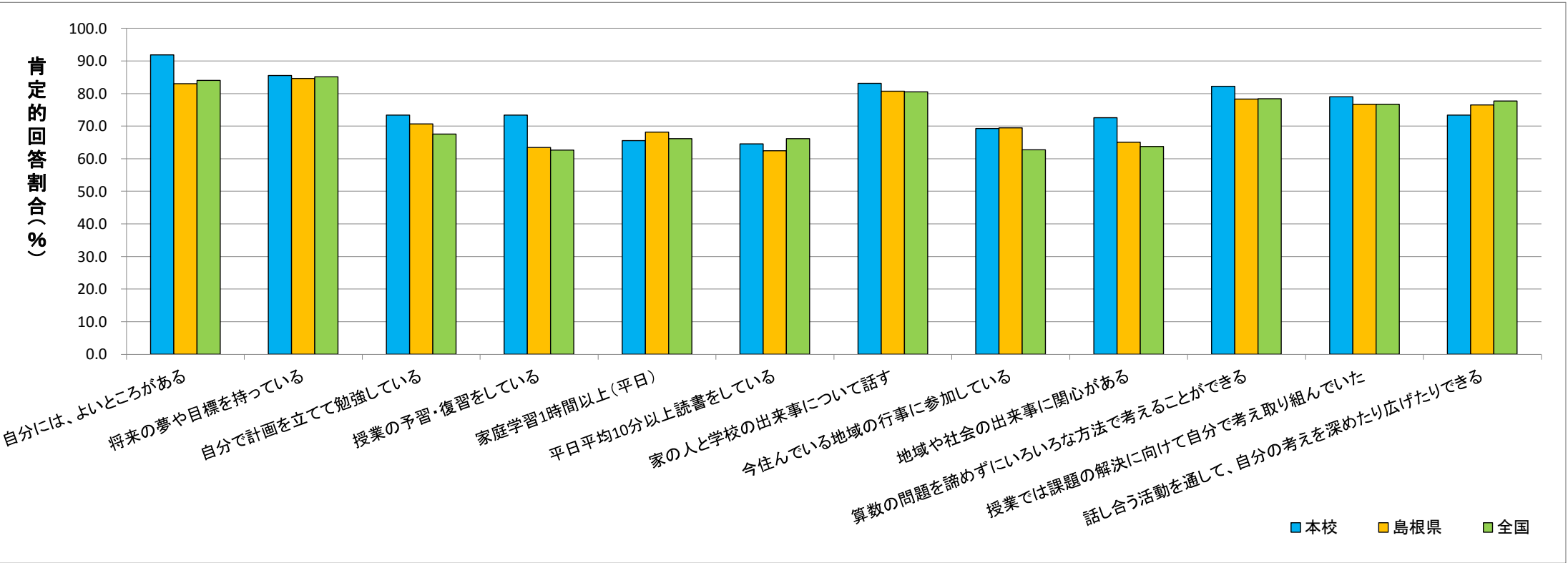
(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

--

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



【参考】

○平均正答率

		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	75	70	68	70.7
	B	62	57	55	54.7
算数	A	69	62	61	63.5
	B	55	50	49	51.5
理科		64	59	58	60.3

受検者数 124 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。